

● 玉縄の学校長

鎌倉市立玉縄中学校
校長 越川 雅之 さん



今年の4月に着任。玉縄中学校に赴くのは2回目だ。1984年から理科の教員として13年間を同校で過ごした。校門で大きく枝葉を伸ばしている大木はそころ植樹されたもの。小さかった苗木が今や2階、3階を超えようとしている。

* * * * *

——二度目の玉縄中学校ということですが、町や学校の印象は変わりましたか。

「マンションはずいぶん増えたように思いますが、変わらず落ち着いたよい町です。学校も耐震工事がされたりといったこと以外は変わっていませんね。当時の生徒が今は保護者の立場で声をかけてくれることもあってうれしいものです。」

——玉縄中学校は市内で一番規模の大きい中学校ですね。生徒さんの様子など、校長先生として赴任されていかがですか。

「やはり活気がありますね。全校生徒約670人。校内がにぎやかで様々な人との交流が広がるのは素晴らしいと実感しています。生徒たちはまじめで素直、どんなことにも真摯に取り組んでくれます。もっと生徒発信の意見やアイデアも聞きたいと思う場面もあるのですが、それを引き出してやるのも教育現場のつとめですね。」

——地域との関わりについてはどう御覧になっていますか。

「もともと学校活動に大変協力的な地域でいつも助かっているのですが、教員

としてこちらにいた頃より交流はずっと盛んになっていて、例えば11月の玉縄まつりでは、吹奏楽部や箏曲部、特別支援学級が発表の場を与えてもらったり、生徒会のブースも設けさせてもらったりしました。また、9月の玉中祭には、毎年、たくさんの近隣の方々にお越しいただいています。

——今後の地域に求めることについてお聞かせください。

「子どもたちを取り巻く環境もずいぶん変わりました。保護者や地域、社会全体で子どもたちを育てていく、ということが今後一層重要になっていきます。すでにある関わりをもっと広げていきたいですね。そのためには地域の皆さんに学校がどんな活動、指導をしているのかを知っていただく必要がある。これは玉縄地域全体で取り組むべき課題として、現在玉縄小学校、植木小学校、関谷小学校と連携してまずはリーフレット作成の準備を進めています。これをきっかけに皆が同じ方向を見て子どもたちを育てていく、そういった流れを作りたい。例えば今はいざ学校の外となるとなかなか目が行き届かないのが現状です。子供たちに地域に見守られているという感覚が育っていけばいいと考えています。」

* * * * *

コミュニケーションツールの変化や家庭環境の多様化、社会全体が大きく変わっていく中、子どもたちを学校だけ、家庭だけで育てることは難しくなっている。教員の業務が多忙を極めていることも今や社会問題だ。リーフレットは今年度中の完成を目指しており、保護者への配布を経て、自治会等地域への周知につなげていきたいと考えている。



横須賀市出身。58歳。現在も横須賀から通勤している。趣味のソフトテニス自身は中学時代の部活動から。教員時代は長らく顧問もつとめた。現在も時々ウェアに着替えてコートに出ることも。座右の銘は「人事を尽くして天命を待つ」。生徒たちに贈る言葉にも選んだ。